

平成 18 年 10 月 26 日 (木)	岐阜経済記者クラブ配付資料	
担当部署	担当者	電話
(財)岐阜県産業経済振興センター	酒井弘貴	058-277-1085

## 刃物産業・和紙産業の産業観光振興に関する調査研究について

### 調査研究の背景と目的

#### 全国から注目を浴びる産業観光！

日本人の旅行に対するニーズが多様化する中、テーマ性・趣味性が強い「産業観光」は新しい観光のタイプとして、注目を浴びている。また、地域経済を活性化させる手段としても、地域産業が持つ個性・可能性を活用できる「産業観光」へ関心が全国で高まっている。



本調査では、衰退傾向にある地場産業（刃物・和紙）の活性化を図ることを目的に、中濃地域の地場産業と観光を結びつける方策の検討を行う。

### 調査研究のポイント

#### (1) 地域産業の特徴を分析

- ・中濃地域の主要産業、地場産業、観光資源を調査し現状と課題を把握。その結果を踏まえ、長所、短所について分析。
  - 長所・・・立地条件、高品質なプロダクト、レベルの高い職人など
  - 短所・・・コアとなる観光施設がない、宿泊施設の不足、地域間連携の不足等

#### (2) 産業観光の取り組み状況の調査

- ・行政、地域団体、旅行会社に聞き取り調査を実施し、産業観光の取り組み状況を調査。現在のところ、多くの機関が重要視しつつも、具体的な取り組みはあまり見られない。
- ・また、地場産業企業を中心に、産業観光に 取り組む企業及び 取り組まない企業、合わせて 30 社に聞き取り調査を実施。
- ・ は産業観光に取り組む理由として、「地域に貢献したい」、「地場産業を传承したい」が多数を占めた。
- ・ が取り組まない理由、意欲を妨げる要因は、「人・カネなど経営資源不足」、「技術の秘密漏洩への懸念」、「費用対効果が少ない」が多数を占めた。

#### (3) 他県の先進事例調査

- ・刃物及び和紙をテーマにした他県の産業観光施設を調査し、その取り組み状況、成功の要因等を把握。
- ・訪問施設は堺 HAMONO ミュージアム（大阪府）、越前和紙の里（福井県）、さんじょう鍛

冶道場（新潟県）など。

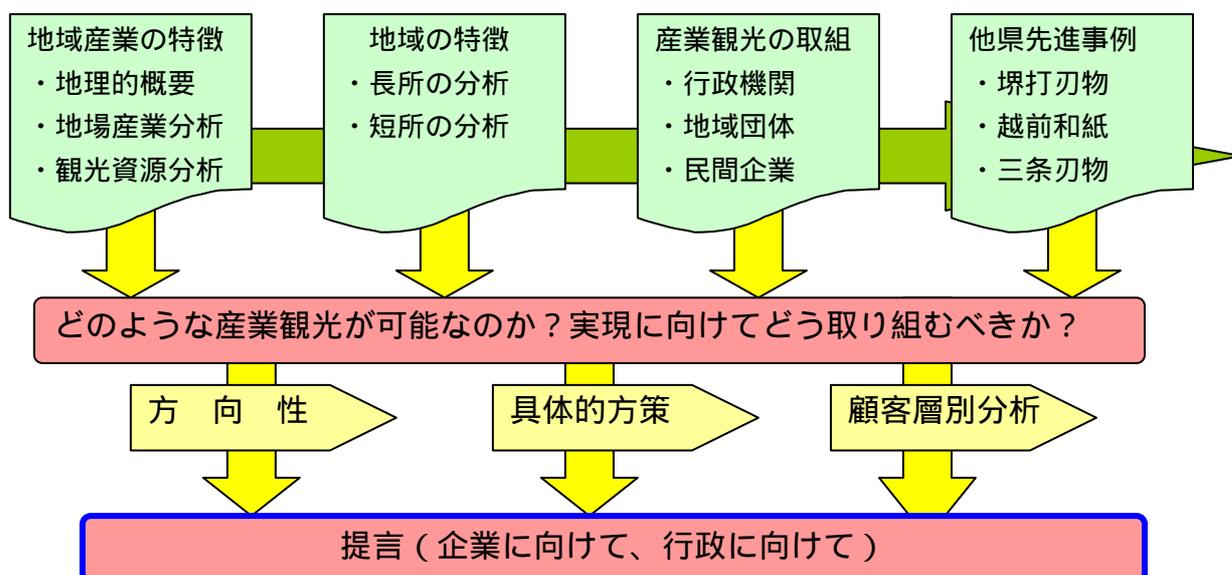
#### （４）どのような産業観光ができるのか

- ・上記の調査の結果を踏まえると、既存の施設、資源を十分に活用していく方向性が効果的であることが明らかになった。
- ・具体的には、この地域の長所である職人がキーをなす。“職人芸を見せる”、“OBの活用”、“職人とのコミュニケーション”などが挙げられる。
- ・工場見学や体験学習など産業観光の要素だけではなく、広い客層を惹きつけるには一般の観光要素を組み合わせることが不可欠である。
- ・ターゲットとなる顧客層は、本物にこだわりがある愛好家、専門家、学習意欲が高い団塊の世代、共同作業を好む家族連れ、カップルなどである。

#### （５）提言

- ・上記を実現するために、企業及び行政はどうすべきか、提言を行った。
- ・企業には、「意識の改革」、「職人の任意団体の設立」等、行政には、「地域間連携の強化」、「食を活かした名物づくり」等を提言した。

#### 調査研究の構成図



#### 担当者コメント

- ・民間企業が産業観光を行う場合は、経営資源的に中小企業には困難であると思われるが、実施内容や方法の工夫次第では難しいものではないと思われる。
- ・産業観光によって、企業にはイメージの向上、製品のPRなど間接的に業績向上の効果がある。地域には、交流人口の増加により地域が活性化し、長期的には地場産業においては人材確保に繋がる効果が期待できる。
- ・今後は、産業観光こそが、地域の未来を切り拓く手段となりうる。